

7火～10金

伝道実践

主に、近隣の町での教会案内やトラクト等の配布、訪問伝道、関係づくりなどを行います。その他、介護施設やカフェ、イベント等での伝道ライブも行います。



14火～17水

講義 聖書の教えるキリスト者像 永井 学院長

キリスト者としての在り方、また、どのような存在なのかなど、聖書の教えるキリスト者像について学び、説教の実践演習をします。



11土

東北ケズィック・コンベンション

毎年恒例の「東北ケズィック・コンベンション」。毎回、学生や研修生が賛美の奏楽や証し、PA、受付など、奉仕しています。

21火～24水

講義 コリント人への手紙 金本 友孝師

使徒パウロが、様々な問題があったコリントの教会に宛てて書いた「コリント人への手紙 (I・II)」について学びます。



学院長のデスクから

厳しい寒さが続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。東北の冬景色の中、拡大宣教学院はその歩みを日々進めています。

1月24日朝、早天祈祷会後のことですが、ゲストハウスの薪ストーブ煙突部分から出火、煙突をカバーする外壁が一部燃えてしまいました。主に守られ、けが人もなく、内側への延焼もない、最小限での被害で鎮火できましたこと、ご報告いたします。皆さまの力強いお祈りに支えられていることを実感した出来事となりました。心より感謝いたします。

必要な修理や取り替えを進めていくため、より一層の経済的ご支援をいただければと願っております。ぜひともよろしく願いいたします。

皆さまの主とともに歩む毎日の上に、豊かな祝福がありますように!

学院長 永井信義



火災箇所をブルーシートで養生中

編集後記

ハレルヤ!!いよいよ本格的に寒さが厳しくなってきました。皆さんは、いかがお過ごしでしょうか?場所によっては、きつと雪かきの機会も増えてくるかと思われます。しっかり体力をつけて健康を維持し、この冬を乗り越えたいものです。

さて、今回の編集後記は、本編の特別講義レポートで掲載出来なかった、スندگان師の証しからピックアップしてご紹介させていただきます。

スندگان師は、2歳半のとき、母親に呪術師のところへ連れて行かれ、その呪術師からスندگان師が、スندگان師の家にとって不名誉な事をすると言われました。その日から虐待と言えほどの酷い扱いを受け、死にかけた事もあったそうです。そんな時に、クリスチャンであったお兄さんが、スندگان師を助け出し、教会に連れて行ってくれました。

その後18年間、スندگان師は母親と会う事はありませんでした。韓国の神学校を卒業し、ネパールに帰って来て最初の働きは、自分の家族に対する働きでした。断食をし、祈りました。そして家族に愛を示し、仕えました。今では、スندگان師の母親もクリスチャンです。ヒンズー教の330万の神々は、決して彼女を愛してくれませんでした。大切にせず、誇りに思う事でもありませんでした。しかし、今は、本当に深い愛や赦しを体験し、毎日喜び、祈っているそうです。

私たちの神は、私たちを本当に愛し、本当に価値あるものとし、本当に大切に扱ってくれます。私たちは、そのような神に期待し、従い、仕え、人生を捧げることが出来ます。この神だけが、私たちを癒し、満たすことが出来る方なのです。

東海林 真



Kakudai Mission Institute No.342

Magnify

拡大宣教学院 機関紙 マグニファイ



あなたの口を大きくあけよ イエス・キリスト福音の群 永井 基呼師



わたしが、あなたの神、主である。わたしはあなたをエジプトの地から連れ上った。あなたの口を大きくあけよ。わたしが、それを満たそう。(詩篇 81 篇 10 節)

2016 年最後の日曜日の12月25日、茨木キリスト福音教会では、約200名収容の会場を借りてクリスマス公開礼拝を行いました。このホールは、教会から徒歩10分ほどの距離で、阪急茨木市駅とJR茨木駅の間

地点にあり、サイズ的にも私たちの教会にちょうど良く、大変便利なので、これまでも年に一度か二度、日曜日の礼拝に利用して来ました。この会場は公の行事優先で抽選もあり、中々希望日を押さえることが難しいのですが、昨年はずいぶん12月25日だけが空いていたのです。私たちは、これは神様の特別なご計画があるに違いないと感じ、期待しつつ、準備を進めてまいりました。

今までこの会場を利用した時の礼拝出席者は150名程。まだまだ座席には余裕がありました。今回は 12 月 25 日、ちょうどクリスマスの日なので、ほぼ満席になるだろうと予想し、来場者にお渡しするプログラムやプレゼント等も多めに用意していました。

聖歌隊や、教会員の家族、友人、知人、地域の方々にも協力を得て吹奏楽団 Cozorite も結成され、熱心な練習が積み重ねられました。祈りに祈って迎えた当日、来場者数はなんと、座席数を100名以上超える約300名。立ち見の方や別室で礼拝を守られた方も数多く、メッセージ中も聖歌隊や吹奏楽団のみなさんはステージを降りることができずにそのまま。文字通り会場あふれる盛会(聖会)となりました!

「あなたの口を大きくあけよ。わたしが、それを満たそう。」(詩篇 81:10)

そうです。私たちの主は、求める者にはいつもあふれるばかりの恵みを与えることのできるお方です。「神はキリストにあって、天にあるすべての霊的祝福をもって私たちを祝福してくださいました」(エペソ 1:3)。「それゆえ、主は、あなたがたに

恵もうと待っておられ」(イザヤ30:18) なのです。「あなたがたのものにならないのは、あなたがたが願わないからです」(ヤコブ 4:2)。

主イエス様は、5つのパンと2匹の魚で5千人を給食なさった奇蹟でも、そのことを示しておられます。「人々はみな、食べて満腹した。そして、余ったパン切れを取り集めると、12かごあった」(ルカ9:17) 人々が十分に食べた後でも、なお12かご一杯に有り余るほどのパン……。

主イエス様の復活後、弟子たちが漁に出かけた時もそうでした。一晚中漁をして何もとれなかった弟子たちに向かって主イエス様は言われました。「舟の右側に網をおろしなさい。そうすれば、とれます」(ヨハネ 21:6)。言われたとおりに網をおろすと、おびただしい魚(153匹)がとれました。朝食に必要なのは幾匹か(ヨハネ 21:10)でした。主イエス様は計算違いをなさったのでしょうか。いいえ、そうではありません。主はあふれる恵みを与えることのできるお方だからです。

3、4年ほど前から「300」という数字を神様から示され、早天祈祷会で密かに胸に抱きながら祈り続けていました。私たちの教会のある茨木市の人口は28万人余。その0.1%が280人。市内の教会数は10。全10教会の礼拝出席者数がそれぞれ300名になると茨木市の人口の1%をようやく超えます。日本のキリスト教界ですつと言われ続けている「1%の壁」を超える具体的な数字です。昨年のクリスマス礼拝の出席者数 300。神様から与えられた一つのしるしとして受け取らせていただきました。

この新しい年、もっと大胆に、大きく口をあけて、主の御前に祈り求めていこうではありませんか。そして、聖書の約束の通りに、主が与えてくださる恵みを、ご一緒に、あふれるばかりに受け取らせていただきますように。

「私たちはみな、この方の満ち満ちた豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを受けたのである。」(ヨハネ 1:16)

CONTENTS

巻頭メッセージ

あなたの口を大きくあけよ 永井 基呼師

宣教レポート

世界ハレルヤ滞在記 ネパール編 No.2

特別講義レポート

講師 タバ・スندگان師 & サニータ師

BOOK あらかると

2

2017 Feb.

世界ハレルヤ滞在記

2016夏 ネパール編 No.2 8月16日～24日 [レポーター] 中山 愛希子

ネパール滞在中、私が滞在していた村の教会で行われていた女性の祈りに参加しました。山奥の村の教会に多くの女性が集まりました。牧師先生も女性の方でした。祈りは午前10時半～午後3時半まで続きました。その間食事もせずひたすら祈り、賛美し、みことばに聞く時間を持ちました。その中で日本語の賛美を歌わせていただき、日本の教会を覚えてお祈りをして頂きました。涙を流しながら一生懸命祈る人たちの姿を見て、飢え渴いているネパールのクリスチャンの姿に感動を覚えました。そして力強い聖霊様の働きを感じました。

今ネパールではリバイバルが起きています。震災後は特に救われる人が倍増し、教会も日ごとに成長しています。その教会成長の理由をいくつか聞きました。

- ・**教会員の方々が友人に伝道している。**
そこで無理やり回心はせまらず、イエス様に従いたいとその人が願ってからそれを助ける。多くのネパールの教会で、今、毎週10～15人の新来者がきています。高校生が学校で伝道して学生が救われるケースも多いそうです。
- ・**教会員が弟子訓練され、キリスト者として成長している。**
- ・**教会から家族を派遣し教会にする。**
ネパールには多くの部族が住んでいます。教会にはいろんな部族出身の人がいて、その部族への教会開拓をするときに家族をリクルートして、土地を買ってそこに住ませ、継続的にその家族をサポートしそこから町へ影響を与えていき教会にするのです。
- ・**ネパールにある多くの病院には、クリスチャンの医師や看護師が多い。**
- ・**170人のフルタイム伝道者を先生達の団体がサポートし熱心に伝道している。**

以上のようなことが主な理由だそうです。しかし、教会成長と同時に教会に対する迫害もおこっています。憲法が変わり、以前よりは信仰の自由が与えられたそうですが、現与党がヒンズー教を母体とする政党のため、クリスチャンが増加していることに恐れを抱いているようです。

ネパールにある孤児院のうち約70%をクリスチャンが運営していますが、一部のヒンズー教徒が信仰を強要しているなどと噂を流し、孤児院の運営に関して厳しく制限を与えています。聖書を読ませてはいけない、トラクトを渡してはいけないなどの規則もあります。

教会が急成長を遂げていることにより影響力を持ち、メディアでもクリスチャンがとりあげられることも多く、ヒンズー教の政党は妬みを起こし権力を用いて圧力をかけてきているようです。ネパールではカースト制度という身分制度があり、貧しく生まれたのはその人の運命なのでそれにそった生き方をするのが当然だという考えを持っています。ですから政府が孤児院の面倒を見る事はありません。先生達はハイカーストといってトップクラスのカーストで生まれました。そのことにより、その地位とお金を用いて貧しい人たちや教会のサポートができています。しかし、いつまで孤児院を続けられるかわからない状況だそうです。政府に捕まる可能性もあるということで、夫婦で情報をつねに共有し、捕まる時はみんな一緒に捕まろうと話しているそうです。迫害の中でも真剣に信仰を守り続けている神の家族がいます。みなさんぜひネパールのクリスチャンのためにお祈りください。

最後に、ネパールに行って私は、色々なカルチャーショックを受けました。停電が当たり前で1日に何度も停電してケータイを充電できなかつたり、暗闇で懐中電灯をつけてトイレやお風呂に入ったり、外にあるトイレは、どこもだいたい汚くて、紙もなくて、水も飲めなくて、手も洗えなくて、道がボコボコで信号もほとんどなくて、日本と比べると不便だと感じるものがたくさんありました。けれど明るく生きてるネパールの人の姿に励まされました。日本に暮らしていると当たり前のことが、実は本当に感謝なことだったのです。そのことを忘れずに生きていきたいです。



みんなに祈って頂きました。感謝です。



サニータ先生のご家族と一緒に。



毎日夜シェアする時間をもっていました。とても喜ばれました。



聖書を読む女の子

特別講義 講師 タバ・スندان師 & サニータ師

タバ先生ご夫妻がネパールから来てくれました!!



12月6日(火)

タバ・スندان師：1987年から教会開拓の働きを始め、働き人を育て派遣する牧師として奉仕しながら、働きのためにビジネスも立ち上げて働きを推進している。自身が関わることで57教会が生み出され、現在、170人の働き人を育て、350教会が生み出されている。教会が教会を生み出すムーブメントの中で、四世代目のひ孫教会まで生み出されている。

タバ・サニータ師：ネパール初の女性校長として、聖書学院で弟子を育てている。とりなしの祈り手の育成、ネパール各地でリーダー訓練を精力的に行う器。アジアアクセス・ネパールの立ち上げから、働きに関わりナショナル・ディレクターとして夫婦で奉仕する。一昨年4月に起こった大地震の被災地での働きに従事しながら、働き人を育て教会開拓の働きに取り組んでいる。



タバ・スندان師



タバ・サニータ師

昨年の8月、中山愛希子さんがネパールに行った際にお世話になった、タバ先生ご夫妻（ハレルヤ滞在記 ネパール編 参照）が12月に来日し、拡大宣学院で特別講義を行って下さいました。

今回の特別講義は、お二人の証しを中心でした。まずお二人に共通するのが、どちらもヒンズー教徒の家で生まれ、子どもの時にイエス様と出会い、救われていることです。そして、証しのなかでお二人とも「日本はとても良い国。まるで天国のよう」と語っておられました。その証しから、特に印象的だったサニータ師の証しをご紹介しますが、残念ながら、その内容をすべて掲載することが出来ないのので、そのなかからピックアップしてお分かちしたいと思います。

サニータ師は、兄妹のうち、自分だけクリスチャンスクールに入学させられました。そして11歳のとき、神の導きによってイエス様を救い主として信じ、受け入れました。ネパールでは、女性は尊ばれず、感謝されることもなく、多くの女性が虐げられています。そのような社会的背景のなかで、男性も女性も、同じように神様のカタチに造られたという聖書の言葉を聞きました。神様は、男性にも女性にも、同じように霊的な賜物を与えて下さっています。神様はサニータ師に預言を通して、看護師になるようにと示して下さいました。神様は、サニータ師が成長していくなかで、夢や幻などを通して語って下さいました。

休暇中実家に帰ると、ヒンズー教の祭りの時期なので家族が集まって儀式をしていて、サニータ師も動められたが、断りました。その途端に家族からの迫害が始まりました。15歳のとき、サニータ師は学校で仕事を見付け、そこで働き始めました。そして看護師学校へ入りました。そこで同級生たちとともに、フェロシップを始め、さらに信仰が成長していきました。聖書を読めば読むほど、もっとイエス様の事を知りたいと思うようになりました。看護師学校を修了した後、韓国に行って修士課程で学びました。

もし、神が召されたのであれば、そこには男女の差も無く、貧富の差や身分の差も関係ない。神が召して下さいました!という確信に歩むことが必要です。神様は、その召しに応じて私たちに訓練し、整えて下さいます。周囲の人は、私たちがそのようにして神様に仕えている姿を見て、神に召されていると分かります。サニータ師は、牧師会メンバーのなかで唯一の女性として、教師の立場を与えられ、牧師や牧師夫人に教える働きをしています。もう、サニータ師に向かって「あなたは女性じゃないか!」と言う人は、誰もいないそうです。そうなるまでは非常に時間が掛かりました。

私たちは、神様の「とき」を待ち望むことが求められます。神様を最優先するなら、神様は他の必要な物を必ず与えて下さいます。

BOOK あらがる

示井信義



浜崎英一牧師の『バイブル・ストーリーによる真理発見』（地引網出版）は、推薦の言葉の中にあるとおり、「聖書のストーリーの中から、真理を発見し、自分を発見し、相手を発見する」、「誰かが教えるのではなく、互いに質問に答える中で、聖霊様が多くの気づきを与えて下さり、互いへの信頼と尊敬が買いを追うごとに増し加わって」いく方法（ツール）がわかりやすく紹介されています。

家庭での礼拝、区域集会やスモール・グループ、教会開拓（増殖）の現場でも役立つこのツール、クリスチャンの間だけではなく、ノンクリスチャンの家族や友人、知人に、主イエスのこと、聖書のことを伝えるためにもぜひ用いてみたいと思います。

